

板敷山

森昭雄 作詩

小笠原浄一 作曲

一、板敷の山路 いくたびか
木枯らし吹く日も 雪の夜も
ともしびかかげた まごころが
ああ今も私の 胸をうつ

二、板敷山に 火はもえて
刀杖もって 猛り来る
その山伏が ひれふした
ああおもかげが 目にうかぶ

板敷山は稲田の河に接す

到る処の風光感慨多し

慚愧す往年鞋杖の地

腕車轆々眠りを戴せて過ぐ

三、稲田の里に 風かおり
涙で書いた 眞実は
あれから七百 五十年
ああ通い来る 今日の日も